

音楽科 学習指導案

日時 平成28年7月25日(月) 2校時

児童 2年生

授業者

場所

1 題材名 「ようすを 音楽で」(鑑賞) 【共通事項】 ア 旋律 イ 反復

～中心教材『動物の謝肉祭より 序奏と獅子王の行進曲』(サン＝サーンス)
関連教材『出発』(セルゲイ・プロコフィエフ)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、音楽が表している情景を想像しながら聴いたり、曲に合った表現を工夫したりして楽しむことをねらいとしている。

本題材で扱う教材は、リズムや**旋律**が**反復**する面白さを感じ取りやすく、その効果などから情景を思い浮かべやすい教材となっている。鑑賞曲の『動物の謝肉祭より 序奏と獅子王の行進曲』(サン＝サーンス)は、ライオンの王が欠伸をしながら起きる序奏の後、ピアノでファンファーレを模倣し、続いてピアノと弦楽器で行進曲(主題)を**反復**すると、低弦に咆哮を示す半音階の動きが現れるなど、様子が想像しやすい曲となっている。その後、歌唱教材として扱う『こぎつね』(勝承夫作詞/ドイツ民謡)は、物語風な歌詞の内容や、繰り返される**旋律**の特徴を生かして表現することができる。さらに、関連教材の『出発』(セルゲイ・プロコフィエフ)は、汽笛の音や蒸気を吹き出す音が現れたり、また車内の遊びの情景や無事到着した情景を表現したりしているため、特徴的な音色や**旋律**、リズムの**反復**に気付きやすい曲である。さらに、同じ汽車をモチーフとした合唱曲『汽車は走る』(岡本敏明作詞・作曲/嶋田義美編曲)は、**反復**を生かしながら速度や強弱を工夫して、汽車が走る情景を音楽で表していくことが可能な教材となっている。

(2) 児童観

省略

3 題材目標

楽曲の**旋律**や**反復**をとらえ、情景を想像しながら聴き、歌詞や曲の気分に合わせて工夫し、情景を歌や楽器で表す。

4 評価規準及び道徳的学び

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	道徳的学び
ア 楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 イ 楽曲の気分を感じ取り、思いを持って演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	ア 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いを持っている。 イ 自分の汽車のイメージ通りの演奏になるように表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いを持っている。	ア 歌詞の表す情景や気持ち、楽曲の気分に合った表現で歌っている。 イ 自分の汽車のイメージに合った表現で演奏している。	ア 旋律 の違いや、 旋律 を奏でる音色の違いに焦点を当てて、場面を想像しながら楽曲を形づくっている要素のかかり合いを聴いている。 イ 楽曲の気分や音楽を形づくっている要素のかかり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。	B「友情、信頼」 ○友達の考えを聞いて、いろいろな聴き方や想像の仕方があることを知る。

5 題材の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 『こぎつね』を歌詞唱する。 『動物の謝肉祭より 序奏と獅子王の行進』をライオンが歩く様子を体で表現しながら楽曲全体を聴き、どんな感じがしたのかイメージを持ち、ライオンの簡単な物語を作ることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの王が目覚め、ゆっくりと歩き出した旋律に着目させ、体を動かしながら聴かせる。 ライオンの様子を場面ごとに表すことができる「ぼく・わたしのライオンの行進」を提示し、音楽から想像する簡単な物語を児童が表現できるようにする。 	関ア
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 『こぎつね』を歌詞唱する。 『動物の謝肉祭より 序奏と獅子王の行進』を、低弦の半音階の旋律や、音色の変化に着目して体を動かしながら聴き深め、音楽から想像したことを動作化し、ライオンの簡単な物語を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が感じ取ったイメージ（体の動き）に対して、「なぜそう思ったのか」を問い、想像したことが、楽曲のどの部分と関係しているのか、楽曲を形づくる諸要素と結び付けながら、ストーリーとして俯瞰できるよう、児童の聴き取りを整理していく。 	鑑ア
3	<ul style="list-style-type: none"> 『こぎつね』の歌詞からこぎつねの様子や気持ちを想像し、繰り返される旋律の特徴を生かして強弱や速度を工夫し、「ぼく・わたしのこぎつね」に表していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに聴き取ったことや、実感した音楽の楽しさについて想起させる。 「ぼく・わたしのこぎつね」を提示し、児童の表現の工夫を表すことができるようにする。 	創ア 技ア
4	<ul style="list-style-type: none"> 『出発』を、情景を想像しながら聴き、『序奏と獅子王の行進』同様、旋律や反復がかかわり合って生み出される曲の面白さや楽しさを交流する。 『汽車は走る』を聴いたり歌ったりし、様々なパートが重なっていることを知り、自分なりの汽車のイメージを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 『出発』を、汽笛の音や蒸気を吹き出す音、また車内の遊びや無事到着した情景を描く旋律に着目させて聴かせる。 『出発』から想像したことや感じ取ったことなどを伝え合う場を設定し、2曲を通しての楽曲の楽しさやよさを改めて実感させる。 	関イ 鑑イ
5	<ul style="list-style-type: none"> 『汽車は走る』を、どのようなところを走っているかグループで想像し、繰り返す旋律やリズムを生かして、速度や強弱を変えながら合奏する。 中間発表会をし、イメージに合っているか確認し、よりよい音楽になるよう修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が『汽車は走る』から想像したことを基に、グループを作る。 中間発表会では、演奏を聴いてどんな感じがしたかイメージを交流する場を持ち、よりよい音楽になるよう、もう一度やってみようという気持ちを促す。 想像したことと工夫したことを共通事項で結び付ける。 	創イ
6	<ul style="list-style-type: none"> 『汽車は走る』を、グループで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 想像したことと工夫したことを共通事項で結び付ける。 録音機器を使用し、児童の演奏の変容がわかるようにする。 	技イ

6 小中連携の視点

	小学校2学年	中学校1学年
目指す 子供の姿	<p>楽曲を特徴づける音に着目して聴こうとし、さらに楽曲の気分や、それを特徴づける要素のかかわり合いを聴き深めていく中で楽曲や演奏の楽しさを実感し、楽曲全体を味わって聴く姿。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞活動に積極的にかかわり、音や音楽からイメージを捉える活動に意欲的に取り組む姿。 イメージと音楽がどのようにつながっているのかを考え、音楽の要素からそのつながりを解明しようとする姿。 他者ととともに音楽とイメージの関わりについて解明しようとし、多様な価値を共有する姿。
手立ての 視点	<ul style="list-style-type: none"> ○聴取対象を明確にする。 ○音楽から場面を想像しながら聴き深めていく活動の設定と、<u>聴き取ったことや感じたことと音楽的要素を結び付ける教師のかかわり。</u> ○同じ要素が含まれた他の楽曲を聴く活動において、想像したこと、感じ取ったこと、<u>楽曲や演奏の楽しさを伝え合う場を設定する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>聴く力を問う課題を設定</u> ・イメージと音楽のつながりを解明する課題を設定する。 ○課題解決に向けて質問作りをする ・課題を自分事として捉え、学習したことの中で課題解決および振り返りの中で現在において現時点での質問を考えさせる ○<u>音楽の知覚・感受を広げるため協働の場の設定</u> ・自己が考えたことをもとに、他者ととともに課題解決に向かって追究活動を行い、多面的・多角的に音楽を捉える場を設定する。

7 研究とのかかわり（第1, 2, 4時にかかわる部分について）

音楽鑑賞の序盤（1h）	<p>I 状況的興味の喚起・維持を促すために</p> <p>【聴取対象の明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公や情景を伝え、想像する土台を合わせる。 ・ライオンの王が行進する旋律をピアノで弾いて聴かせる。 ・ファンファーレが聞こえたらラッパを吹く真似、ライオンの行進が聞こえたら歩く動作をしながら、楽曲全体を聴かせる。 <p>目指す子供の姿① わかりやすい特徴に気を付けながら、聴こうとする子供</p>
音楽鑑賞の中盤（2h）	<p>II 個人的興味の出現を促すために</p> <p>【音楽から場面を想像しながら</p> <p>聴き深めていく活動の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低弦の半音階の旋律や、行進の旋律がピアノに変わった場面に着目させ、場面やライオンの動きを想像しながら聴かせる。 ・想像したライオンの様子や、根拠を書き込むことができる「ぼく・わたしのライオンの行進」を提示する。 <p>II—（1） 内的活動の高まりを促すための工夫</p> <p>【聴き取ったことや感じたことと</p> <p>要素を結び付ける教師のかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしながら楽曲を聴かせることにより、聴き取ったり、感じ取ったりしたことを表現できるようにする。 ・児童の表現を全体で取り上げ、なぜその動きにしたのか、なぜそう思ったのか等を全体で交流し、イメージを共有したり、音楽の諸要素のどこと関連しているのかについて自覚させたりする。 ・「ぼく・わたしのライオンの行進」を作成していくことで、児童の想像やその根拠を可視化（言語化）させたり、音と動きの整合性を促したりする。 ・想像してきた各場面を板書に表し、1つのストーリーとして俯瞰して見られるようにする。 <p>目指す子供の姿② 楽曲を形づくっている要素のかかわり合いや楽曲の気分を感じ取りながら聴き深める子供</p>
音楽鑑賞の終盤（4h）	<p>III 発達した個人的興味の出現を促すために</p> <p>【同じ要素が含まれた、</p> <p>他の楽曲を聴く活動の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『出発』を汽笛の音や蒸気を吹き出す音、また車内の遊びや無事到着した情景を描く旋律に着目させ、場面や様子を想像しながら聴かせる。 <p>III—（1） 内的活動の高まりを促すための工夫</p> <p>【想像したこと、感じ取ったこと、</p> <p>楽曲や演奏の楽しさを伝え合う場の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汽笛や蒸気の音が繰り返して出たり、旋律が変わっていったりする中で「汽車はどうしたのかな？」と問い、感じたことや想像したことを交流させ、『序奏と獅子王の行進』同様、旋律やリズムの反復に着目して情景を想像すると、楽しく曲を聴くことができることを実感できるようにする。 <p>目指す子供の姿③ 楽曲や演奏のよさを改めて実感し、楽曲全体を味わって聴く子供</p>

8 本時について（2／6時間目）

（1）研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点と**II**、**II—（1）**に関わって、手立てを講じていく。

子供たちは、前時に『動物の謝肉祭 序奏と獅子王の行進』の序奏（1場面）とライオンの旋律（2場面）について、聞こえてきた音を体で表現しながら場面の様子を想像し、「ぼく・わたしのライオンの行進」に書き表している。また児童は、曲を最後まで聴いていく中で、途中から体の動きが人によってばらばらになっていたり止まったりしていることに気付き始め、続きの3場面、4場面のライオンの動きを考えなければならぬという見通しを持っている。

そこで本時では、手立て**II**として、半音階の旋律が現れた場面（3場面）と、行進の旋律がピアノに変わった場面（4場面）に焦点を当てて、ライオンの様子を想像しながら聴き、「ぼく・わたしのライオ

ンの行進」に書き表していく活動を設定する。その際、手立てⅡ—(1)として、それぞれの場面について、小グループで児童自身の想像を動きで表現させる。児童の動きに対して、「なぜその動きなのか」などと教師が関わっていくことで、イメージを共有させたり、根拠となる音楽的要素との結び付きを自覚させたりしていく。さらに、児童の想像した動きや、その根拠について「ぼく・わたしのライオンの行進」に記入させることで、頭の中のイメージに対する自覚を深めたり、音と動きの整合性を促したりする。また、場面ごとに想像してきたライオンの動きや根拠を板書に表しておくことで、各場面をストーリーとして俯瞰して見られるようにし、曲全体を通してお話ができたことを実感できるようにしていく。

(2) 本時の目標

旋律の違いや、旋律を奏でる音色の違いに焦点を当てて、場面を想像しながら楽曲を形づくっている要素のかかわり合いを聴く。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 □自己肯定感	評価 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○前時の学習を想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライオンの王様の曲だった。 ・曲の中で動けないところがあった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「ぼく・わたしのライオンの行進」をかんせいさせよう</p> </div> <p>○全曲を通して聴き、ファンファーレとライオンの行進とは違う旋律を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低い音から高い音になっているところ。 ・行進が高くなっているところもある。 <p>○低弦の半音階の旋律に着目して聴き、想像したこととライオンの動きをグループや全体で交流し「ぼく・わたしのライオンの行進」の3場面を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がおー」ってほえていると思う。 ・まわりの動物を威嚇していると思う。 ・だんだん音が大きくなって小さくなったから、だんだん上向きになって吠えてから、下を向いたと思う。 ・だんだん音が高くなって低くなったから、だんだん背伸びして、もとの姿勢に戻ったと思う。 ・4回も繰り返しているから周りのラッパの人たちを一人一人驚かしていったと思う。 <p>○行進の旋律の音が変わった場面に着目して聴き、想像したこととライオンの動きをグループや全体で交流し「ぼく・わたしのライオンの行進」の4場面を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が高くなった。かわいい音になった。軽くなった。 ・さっき威嚇した時に、びっくりしてくれたから、嬉しくなってスキップをしていると思う。 ・強さを自慢したい気持ちだと思う。 <p>○楽曲全体を通して、ストーリーとして体を動かしながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部動けるようになった。 ・ライオンのお話が完成した。 	<p>□全員で統一する情景や場面を板書で表しておき、行進の旋律ではない部分を空白にしておく。</p> <p>□楽曲から聞こえてくる音から、場面を想像させながら聴かせていく。Ⅱ</p> <p>□机上で行進の動きをさせながら、行進の旋律ではない部分で手を挙げさせる。Ⅱ—(1)</p> <p>□「ライオンが何をしたのかな」と問い、半音階の旋律の場面のみを聴かせる。Ⅱ</p> <p>□3人組で、ライオン役とラッパ(部下)役に別れ、児童自身の想像を動きで表現させる。Ⅱ—(1)</p> <p>□「なぜそう思ったのか」「なぜその動きなのか」等、全体で交流し、イメージを共有したり、音楽の諸要素のどこと関連しているのかについて自覚させたりする。Ⅱ—(1)</p> <p>□「ぼく・わたしのライオンの行進」に、自分の想像したライオンの動きに一番近いライオンの絵を貼らせ、さらに根拠を書かせることで、イメージに対する自覚を深めたり、音と動きの整合性を促したりする。Ⅱ—(1)</p> <p>□弦楽器での旋律と、ピアノでの旋律を聴き比べさせる。Ⅱ</p> <p>□3人組で、ライオン役とラッパ(部下)役に別れ、児童自身の想像を動きで表現させる。Ⅱ—(1)</p> <p>□「なぜそう思ったのか」「なぜその動きなのか」等、全体で交流し、イメージを共有したり、音楽の諸要素のどこと関連しているのかについて自覚させたりする。Ⅱ—(1)</p> <p>□「ぼく・わたしのライオンの行進」に、自分の想像したライオンの動きに一番近いライオンの絵を貼らせ、さらに根拠を書かせることで、イメージに対する自覚を深めたり、音と動きの整合性を促したりする。Ⅱ—(1)</p> <p>□想像してきた各場面を板書に表し、全体をストーリーとして俯瞰して見られるようにしておく。Ⅱ—(1)</p> <p>□曲の変化に着目して聴くと、ライオンの様子を想像しながら楽しく聴くことができ、「ライオンの行進」を完成させることができたことを価値付ける。</p>	<p>△今までは違う動きをしている児童の聴き取ったことや感じ取ったことを、全体の場で共有し、他の児童の想像を広げる。</p> <p>▲半音階の旋律が、声か動きのどちらを表しているのか選ばせ、想像を膨らませる。</p> <p>▲友達発言から、自分のイメージに近いものを選んで伝える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>場面を想像しながら楽曲を形作る要素を聴き、感じたことを表現している。</p> <p>【鑑ア～観察・発言・記述】</p> </div>